

## 【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	やや少	やや少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	やや多 多 やや少	やや多 多 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 ( <i>G. cingulata</i> ) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 やや多 やや多 やや少	並 並 やや多 やや多 並
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	やや多 並 やや多	やや多 やや多 やや多
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少	並 並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	並 やや多	並 やや多

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## 大豆

## 1. 吸実性カメムシ類

## (1) 予報内容

発生程度 やや少

## (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.8%、株あたり虫数0.04頭、発生圃場率22.2%)

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は52.0%(35.0%)、株当たり虫数は0.64頭(0.61頭)であった。

## ばれいしょ

## 1. アブラムシ類

## (1) 予報内容

発生程度 やや多

## (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は2.7%(0.8%)、発生圃場率は25.0%(14.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

## (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は塊茎えそ病などのウイルス病を媒介するので発生初期からの防除を行う。

イ 下位の葉裏に寄生が多いので、薬剤散布は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

## 2. ジャガイモガ

### (1) 予報内容

発生程度 多

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は4.0%(0.5%)、発生圃場率は30.0%(10.1%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 土中のいもが産卵を受けないよう土寄せを十分に行う。

イ 圃場での発生に注意し、ヨトウムシ類と併せて薬剤散布する。

## 3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.9%(5.7%)、発生圃場率は30.0%(39.7%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に増加し、平年よりやや多く推移している(図)。

ウ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に急増し、平年より多く推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

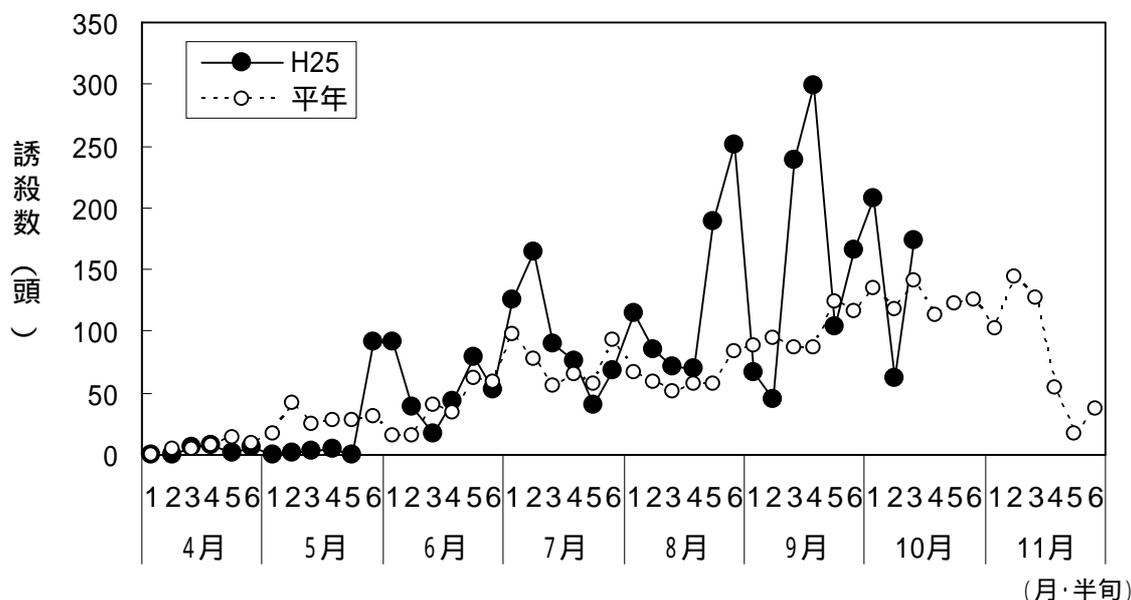


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)  
平年:H15~24年の平均値(最大・最小値除く)

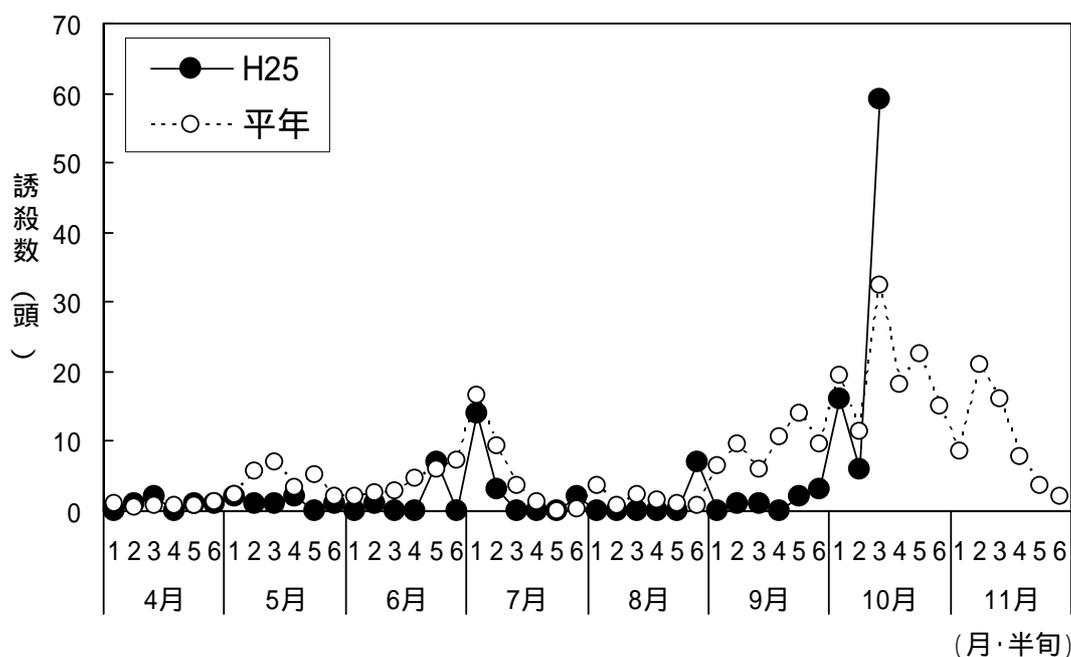


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越  
H22より粘着板からファネルトラップに変更  
平年: H14~H23の平均値(最大・最小除く)

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(過去10ヵ年平均発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)

#### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 果実への感染を防ぐため、定植後から開花期までの予防散布に重点をおく。
- イ 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- ウ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

### 2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は7.4%(5.6%)であった。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.5%(1.8%)、発生圃場率は44.4%(19.1%)であり、一部多発圃場が認められた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

#### 4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.0%(1.9%)、発生圃場率は14.8%(20.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- ウ 天敵放飼を予定している場合は、天敵に影響のある薬剤の使用時期に注意しながら放飼前の防除を徹底する。

#### 5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は4.6%(9.3%)、発生圃場率は59.3%(72.0%)、寄生株率は0.7%(2.5%)であった。
- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に増加し、平年よりやや多く推移している(ばれいしょの項参照)。
- ウ 病害虫防除員による調査結果では、やや多~平年並の発生である。
- エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### ブロッコリー

#### 1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は7.3%(過去6カ年平均寄生株率1.4%)、発生圃場率は25.0%(6カ年平均18.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

#### 2. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は5.3%(過去6カ年平均5.0%)、発生圃場率は41.7%(6カ年平均38.3%)であった。また、ヨトウガの寄生株率は0.3%(過去6カ年平均1.9%)、発生圃場率は8.3%(6カ年平均16.7%)であった。
- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に増加し、平年よりやや多く推移している(ばれいしょの項参照)。
- ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の齡期が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見に努め、若齡期のうちに防除する。

### 3. オオタバコガ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は2.0%(過去6カ年平均寄生株率0.4%)、発生圃場率は33.3%(6カ年平均5.6%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に急増し、平年より多く推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

幼虫の齡期が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見に努め、若齡期のうちに防除する。

## レタス

### 1. ハスモンヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.8%)、発生圃場率は8.3%(11.6%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に増加し、平年よりやや多く推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### 2. オオタバコガ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.3%、発生圃場率4.0%)。

イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月3半旬に急増し、平年より多く推移している(ばれいしょの項参照)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

## かんきつ

### 1. 青かび病、緑かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(1.0%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。

## 2. ミカンハダニ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は13.4%(3.3%)、発生圃場率は58.3%(32.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】  
気象

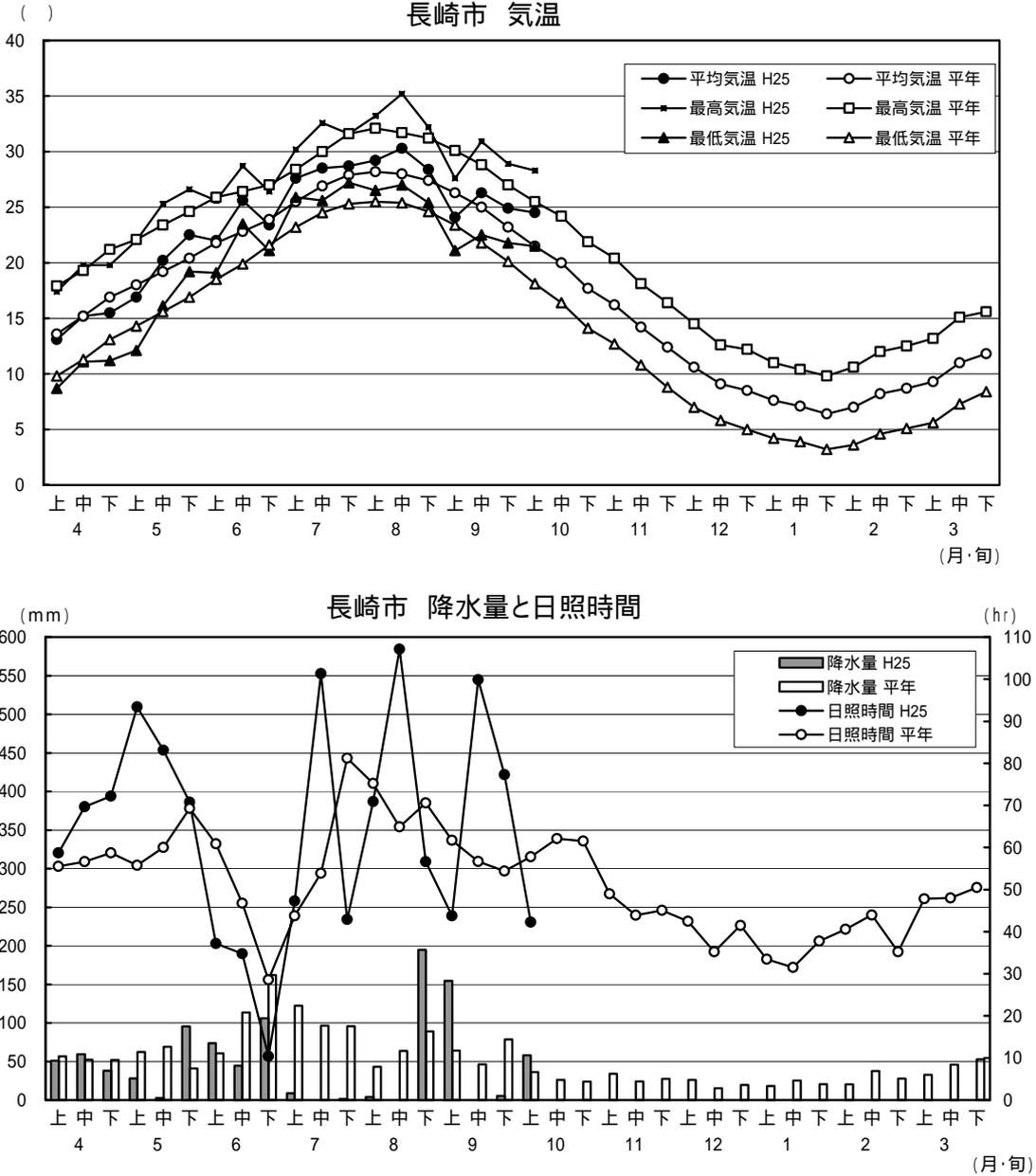
(平成25年10月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋気象台)



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027